ひと

ハートで鎌倉をバリアフリーにと活動する

榊原　正博（さかきばら　まさひろ）さん

湘南・鎌倉地区の観光を身体の不自由な人びとに楽しんでもらおうと情報を発信するNPO法人「湘南バリアフリーツアーセンター」の理事長。

「バリアフリーはハートが大事」を信念に3年間活動を続けている。4月5日車いす利用者が着物で鎌倉を散策するイベントを開催する。

「できないと思ったことができると、生きることが楽しくなる」。こう考えて始めた「着物deお散歩鎌倉巡り」は6回目になる。同様に着物姿で海岸の砂浜にマットを敷き、特殊な車椅子で海水浴を楽しんでもらうイベントも仕掛けてきた。

その活動が評価され、センターは2月、神奈川県バリアフリー街づくり賞（ソフト部門）を受賞した。

電気通信大を出て、医療機器メーカーに就職した。だが医療機器を作れば作るほど寝たきりをつくってしまうのでは、という疑問を持ち、2009年福祉機器販売の会社を立ち上げた。福祉の先進国スウェーデンに研修に行き、その人のやりたいことをサポートするリハビリ方法を学び、リハビリサービスの提供も事業として展開するようになった。

バリアフリーというと、段差をなくす、エレベーターを設置するなどを考えがちだ。「実はハード面よりも人の心を変える方がバリアフリーの効果が出るのです」と力説する。

例えば、東南アジアのタイは、障がい者が行って楽しかった場所のトップにある。町中バリアだらけでも人が手助けしてくれる。鎌倉は混雑し、道路は狭い、お寺は行けない。障がいのある人が尻込みする観光地の一つ。「でもタイでできるのだから鎌倉でもできるはず」と、市民のハートに期待する。

とはいえ、お互いを知らないと、障がい者も、接する健常者もどちらも不安になってしまう。みんなが安心、納得する方法を考えなければいけない。「それを地道に調査していくのが僕たちの仕事です」ときっぱり。近く観光ルートマップの製作にも着手する。

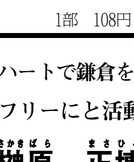
「穏やかに見えるが内に秘めた熱量は半端ない」がスタッフの人物評。「活動で、鎌倉が（体の不自由な人の）行きたい町の何番目かに入ってくれれば」と願っている。横浜生まれの鎌倉育ち。山崎に母親と妻、大学、高校、中学の3人の子供と暮らす。趣味は「仕事かな？」。46歳。

（文・写真　三浦準司）

健康百科　通信 ⑰

肝機能検査（AST、ALT）について

日本肝臓学会専門医　金原　猛



肝機能の代表的な検査項目に、AST（GOT）、ALT（GPT）などがあります。皆さんも健康診断や治療後の血液検査を受けられたことがあると思います。

それでは、これらの正常値はどのくらいか存知ですか？ 例えば、C型肝炎や治療を終了するのは、ALTの値が31U／L以上である場合です。では、30U／L未満でしたら肝機能は正常と考えられても、肝臓病が潜んでいる場合があります。これらの値だけでは診断が困難であり、他の検査項目と総合して肝機能評価や肝臓病の有無を診断しています。

糖尿病などの生活習慣が原因となった肝臓病が増加し、誰でも肝臓病になる危険性があります。

AST、ALTの値が正常だから肝臓は大丈夫と考えず、より詳しい検査を受けられることをお勧めします。

大船内科・消化器内科クリニック院長　鎌倉市大船2-17-2　パルティーダ2F

☎0467-38-8127

映画・文化の輝きを未来に向け発信

鎌倉市川喜多映画記念館

映画とは…その真価伝えて開館10年目

市民生活になくてはならない娯楽の一つとして長い歴史を刻む映画。その魅力と存在価値を市民に伝え続ける鎌倉唯一の映画の館、鎌倉市川喜多映画記念館の総括責任者・増谷文良さんにうかがった。

―貴館の「川喜多」という名称は。

元々この地に川喜多長政・かしこ夫妻が住んでいたことに由来します。川喜多長政は1903年（明治36）4月30日に東京で生まれ、ヨーロッパ生まれの映画がまだ無声映画中心の時代だった1928年（昭和3）、映画の輸入会社「東和商事合資会社」を設立しました。

かしこ夫人はその翌年同社に入社し、その年に長政氏と結婚、以来2人で映画関連事業に携わり、1932年（昭和7）には新婚旅行を兼ねてヨーロッパに映画の買い付けに行き、かしこ夫人が初めて選んだドイツ映画『制服の処女』が日本で大ヒットしました。

川喜多夫妻＝1979年、第32回カンヌ国際映画祭で

川喜多映画記念館の入館口

『第三の男』1952年日本公開

1938年（昭和13）には最古の国際映画祭（ヴェネチア国際映画祭）として今も開催されているヴェネチア国際映画祭に出席、そのとき出品した日本映画『五人の斥候兵』が同映画祭で3部門賞を受賞しましたが、これは日本映画初の国際的な賞の受賞でした。戦後も1951年（昭和26）に長男宏氏が東京からの地に転居したようです。当時はすでに戦時下でしたが、一方で1940年（昭和15）夫妻にとって待望の長女、和子さんが誕生しましたので、この出来事が鎌倉に転居する大きなきっかけになったと思われます。

さらに1936年（昭和11）大船に松竹大船撮影所が開設され、小津安二郎監督や野田高梧、笠智衆、井川邦子など多くの映画人が鎌倉に住んでいたので、そのような人たちと交流を深めるなど鎌倉に映画文化が根付きました。大仏次郎や川端康成など鎌倉文士と呼ばれる文学関係者もたくさんグランプリを受賞、国際的にも日本映画にたいへん注目が集まることとなりましたが、これらは川喜多夫妻の映画界での国際的活躍の成果と思われます。

―川喜多夫妻がこの地に住んだいきさつは。

昭和15、16年頃に川喜多夫妻が東京からこの地に転居したようです。当時はすでに戦時下でしたが、一方で1940年（昭和15）夫妻にとって待望の長女、和子さんが誕生しましたので、この出来事が鎌倉に転居する大きなきっかけになったと思われます。

さらに1936年（昭和11）大船に松竹大船撮影所が開設され、小津安二郎監督や野田高梧、笠智衆、井川邦子など多くの映画人が鎌倉に住んでいたので、そのような人たちと交流を深めるなど鎌倉に映画文化が根付きました。大仏次郎や川端康成など鎌倉文士と呼ばれる文学関係者もたくさん住んでいました。

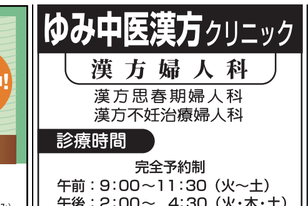
このように内外の映画人と深い交流を重ねていましたが、この住まいの地にもフランスの映画俳優アラン・ドロンや映画監督フランソワ・トリュフォーを招きおもてなしをしています。

―戦後の活動は。

1951年（昭和26）に「東和映画株式会社」に改組し、「第三の男」や「禁じられた遊び」などヨーロッパの名作映画を日本に紹介するなど映画を通じた欧米との交流の架け橋となりましたが、1955年（昭和30）には日本とイタリアの合作映画『蝶々夫人』のプロデュースも行っています。

―その後は。

1981年（昭和56）長政氏が逝去、1993年（平成5）にはかしこ夫人と長女和子さんがこれになりました。そして翌年、鎌倉市の映画文化発展のために」とのかしこ夫人の遺言にしたがい遺族からこの土地と建物が鎌倉市に寄贈され、それを元に16年後の2010年（平成22）4月1日当館が開館しました。ですから当館は、川喜多夫妻の業績を後世に伝え、鎌倉市における映画文化発展のための事業を行なっています。



©1955東宝

八千草薫主演『蝶々夫人』（1955年日本公開）

映画大使の足跡 企画展で特集紹介

―開催中の企画展は。

「映画大使 川喜多長政・かしこ夫妻の軌跡」で、戦前の貴重なポスターや着色スチールなどの作品をぜひご覧いただきたいと思います。

また、戦前の内務省の検閲台本。当時は映画の検閲制度があり、内務省が検閲したうえで映画館で上映されていました。その台本が残っているので、映画史の貴重な証言として皆さんにご覧いただきたいと思います。また今回の上映作品は、夫妻が輸入配給したヨーロッパの名作が揃っています。

◎戦場のメリークリスマス　4月2・3・4・5日14時～、6日10時半～、7日13時半～

◎第三の男　5月28日10時半～、29・31・6月2日14時～

◎禁じられた遊び　5月6日14時～、12日14時～（4月6日14時～にも開催します。小山さんを除く）

◎ゴルゴダの丘　5月11・13日14時～、16日10時半～

◎赤と黒　6月25日10時～、26・28・30日13時半～

◎モンパルナスの灯　6月25・27・29日14時～、30日10時半～

◎春の施設公開　旧川喜多邸別邸（旧和辻邸）4月6・7日午前10時～午後4時

他に毎週金、土曜の13時～13時半にも公開。

◎恋の空の下セーヌは流れる　6月11日10時半～、12・14・16日14時～

◎居酒屋　6月11・13日15時～、16日10時半～

◎映画談話室　4月30日14時～「蝶々夫人」上映後。5月31日14時～「第三の男」上映後。6月27日14時～「モンパルナスの灯」上映後。

作品解説を盛り込みながら語り合う楽しい集いです。

―どうもありがとうございました。

鎌倉市川喜多映画記念館

鎌倉市雪ノ下2-2-12　☎0467・23・2500

映画は世界の共通言語です

―文化の一ジャンルとして「映画」が愛されてきた理由は。

二つあります。1つは、総合芸術としての映画。文学、美術、音楽と様々な芸術分野がある中でそれらを全て含んだ総合芸術であるということも魅力ですが、文化として広まった大きな力になっているでしょう。映画の一つの作品からいろいろな興味を広げられる。興味の幅を広げてゆく一つの切っかけともなる力を持ち、多様な観客を引き寄せる力を有しています。

また、旧川喜多邸別邸は旧和辻邸と呼びますが、哲学者和辻哲郎の住まいを1961年（昭和36）に川喜多夫妻が移築しゲストハウスとして使用していました。

もう1つは映画館の文化。芸術としての映画であるとともに大衆娯楽としての映画です。映画が発展してきた大きな要素です。映画は映画館で一度に多くの人たちが一つの作品を観る。どの国でも観賞できる。視覚の文化ですから言葉が通じなくても理解できる。世界共通言語としての力を持っている。それが映画文化です。川喜多夫妻も芸術と娯楽で成り立つ映画の力を信じていました。

夫妻は、国際映画祭を通して川喜多夫妻と大変親しく、1985年には大監督に川喜多賞が贈呈されました。

―他の催しは。

「映画談話室」があります。

―映画館にはどのような映写機が。

映像資料室には映画館で使用しているのと同じフイルムサイズ、35㍉と16㍉兼用の映写機が2台設置されています。ドイツ製の、キノトンというメーカーの映写機で、すでに映写機自体が作られていませんので、35㍉の映画が上映できる映写機はほとんどの映画館でもうありません。ミニシアターとか公共の施設の一部で置いてあるぐらいで、今ではたいへん貴重なものです。フイルムは劣化から、映写機がないと上映ができない。その意味でこの施設自体が貴重な場所になっています。また、一つの場所で、同じスクリーンをいろんな人たちといっしょに観るという経験がまさに映画体験でしょう。

もう一つの機能は、情報発信です。モニターで映像作品を見たり、関連書籍を閲覧したりウエブなどで検索できる情報資料室です。

©1952STUDIOCANAL

『禁じられた遊び』（1953年日本公開）

小山明子さん

☆鎌倉市倫理法人会 通信

いざ鎌倉！ ㊺

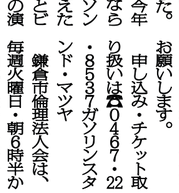
成功への土陣

歴史と伝統のある鎌倉を梁山泊に！

東日本被災児童支援コンサート

三寒四温の三月は、道ったままの人々のいる事を歩けば時折の冷たい風に襟をかき寄せながらも満開の梅、膨らむ桜の蕾と次々変で楽しむ事が出来ますが、家のテレビの画面には又、あの日のつらい映像が流れます。

随分経った様でありながら、今も仮設住宅で過ごしている方達、荒涼とした人気のない廃墟の片隅ではなに命を繋いでいる金魚の姿が胸を突きます。私達は忘れてはいけないのです。その災い、人の災いに未だ故郷を失いて私たちに深い洞察力を授けてくれる。僧侶としても多くの死者と向き合ってきた氏は、私たち生者は死者たちと魂のレベルで繋がっているだけではない、という。私たち生者は死者たちの「見えざる力」によって守られ、支えられているのだ、と死者迎えの盆踊りの業績を後世に伝え、鎌倉市における映画文化発展のための事業を行なっています。



クレイドル

昨今、あちらこちらでも大きな災害に見舞われ、8年前を思い起こさせる様な被害が出ています。私達はしかと学ばなければいけないのです。

明日は我が身なのですから。

彼の地の生命力と希望の象徴、奇跡の一本松、この木で作られた魂柱を持って「TSUNAMIバイオリン」その音色に寄せて私達の心を届ける「東日本被災児童支援チャリティーコンサート」も早、第6回を迎えました。

6月9日日曜日、今年はクラシックのみならず、ロック、アニメソングなどジャンルを超えた音楽を、バイオリンとピオラで迫力ある独自の演奏で繰り広げる元気一杯、人気急上昇中のユニット「クレイドル」を迎え、大船の鎌倉芸術館集会室で開催します。

会費2800円（前売2500円）、小学生千円、未就学児無料。ぜひご家族お揃いでお楽しみいただけたらと思います。

「人の喜び、わが喜びに自分達に出来る事をやってきた氏は、私たち生者たちに、また、大切にすることによって、私たちはより良い人生を歩むことができるのだ。

この本の副題は「見えざるものと私たちの幸福であった。私たちの幸福は、死者を含んだ様々な見えざるものによって支えられていることは、少し想像力を働かせれば理解できるであろう。私たちは、見えざる死者と共に生きることによって生かされ、幸せの道を歩んでゆくのである。

（早稲田大学名誉教授・鎌倉てらこや顧問）

いざっ!! 鎌倉てらこや ㊻

移りゆく季節

鎌倉てらこや事務局長　小木曽　駿

ほんの少し前までの肌を切り裂くような寒さは、気がつけば明らかな陽光に塗りつぶされている。駐車場の砂利をかき分けて根付くタンポポが健気に花を咲かせている。メンソレンの注意喚起を今か今かと待ちわびている。春がほころび始めているのだ。

「鎌倉てらこや」にとっても春は別れの季節である。子どもたちはそれぞれ進級し小学校や中学校を卒業していく子もいる。ともに活動をつくってきた大学生たちも4年生を対象とした卒業旅行が開催された11号目の春を過ぎると、就職に向けて準備していただいたり、会費やてらこやハウスでの居場所とのお別れを惜しんだりと、名残惜しい気持ちでいっぱいになる。

大学生たちは、子どもたちや祖母にお世話になった保護者に囲まれながら、別れを惜しみつつ、再会を約束して写真を撮り合っていた。

季節は移り変わってゆく。そして、誰にも平等に時は積み重なる。やんちゃ盛りの小学生も、定期試験に四苦八苦しながら活動に参加している中学生も、つい先日まで小学生だった大学生となり、大人になっていく。ゆくゆく子どもを持ち、親となることもあるかもしれない。

桜が咲き誇るのを止められないのと同じように移り変わってゆく時を、押しとどめることはできない。

「てらこや」ができることはその各々の子どもたちが成長していく状況に寄り添いながら「今、この瞬間を確かに生きていた」と感える、大切な思い出を届けていくことだけだ。

「また、会いたい」と感える関わりを周りが紡いでいく、という変わらないものを大切にしながら、大学生スタッフが中心となって子どもたちと出会いを繰り返しつつ、寄り添い続けなければならない。

別れの後には、新たな出会いも待つ。今年もまたとびっきりの季節が移ろいゆく。

☎0467・84・9746（平日13～17時）

鎌倉てらこや事務局

http://kamakura-terakoya.net/

終の棲み家を考える ⑥⓪

内科・皇編

部屋をつくるとき床をどんな材料で仕上げるか考えます。和室の場合、まず畳にするか板の間にするかを決め、畳の場合は縁を無地か柄にするか四角形にするか六角形にするかを決めます。畳本体の芯になる材は、値段によって本物の藁床のものから化学素材のものまであります。

表面のゴザも上質の物から粗悪なものまであり、イグサの編み方が細かく節んでいる物が良く、イグサを横に走り中央の色が濃く縁の方の色が薄いものは安価な物です。イグサは植物で、成長の悪いものほど大きく短いので、根に近い部分まで使うと畳の部分の緑色と根の色の色が混ざって

■日向建設　鎌倉市大船1-15-3　☎0467・47・5454　http://www.hyuga.co.jp

日経1週間 試し読み 実施中!
日本経済新聞を7日間無料でお届けいたします。
今なら 特典をご用意しています。
ご購読・試読のお申し込みの方に
日刊 月ぎめ購読料 4,900円(消費税込み)
ご購読・試読のお申し込みは
①インターネットで 日経お試し で 検索 http://try.nikkei4946.com/
②電話で 0120-83-4946 キャンペーンコード 6ai3hk
お客様の個人情報はお住まいの地域を担当する新聞販売店に連絡させていただきます。当該店において適切に管理し、新聞販売業務に利用させていただきます。配達開始後のお問い合わせは販売店までお願いいたします。日本経済新聞社はお客様の個人情報を、お申し込み受付ならびに販売店連絡の記録として一定期間保管させていただきます。なお試読の場合は購読への意向を確認させていただく場合があります。
本日開始の有効期間：2019年3月31日

ゆみ中医漢方クリニック
漢方婦人科
漢方思春期婦人科
漢方不妊治療婦人科
診療時間
完全予約制
午前：9:00～11:30（火～土）
午後：2:00～ 4:30（火・木・土）
住所：逗子市小坪1－18－4
TEL：0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
各種健保扱・自費診療有

訪問診療・往診
医）湘南友和会
さとうクリニック
認知症対応　訪問看護
訪問介護　癌末期管理
在宅看取り　緊急時病院連携
〒247-0061 鎌倉市台5-8-29
TEL 0467-43-5220

朝日新聞の購読料は口座振替で
・手数料は一切不要
・手続き簡単
ASA
従業員募集
詳しくは最寄りのASAへお問合せを
・専業従業員
・婦人パート
・学生アルバイト